

(5) 英語

ア 個々の問題の概要及びその通過率

—評価の観点—
 表 現：外国語表現の能力
 理 解：外国語理解の能力
 言・文：言語や文化についての知識・理解

(◇：「活用」に関する問題)

学習指導要領 の内容	問題番号	出題のねらい	活 用	評価の 観 点	A設定通過 率 (%)	B通過率 (%)	AとBの 比較
ア 聞くこと (ア)(イ)	1	(1) 絵を参考に、教室英語による指示を聞き分けることができる。		理 解	65	72	↑
		(2) 絵を参考に、人の行為や場面を聞き分けることができる。		理 解	65	96	↑
		(3) 絵を参考に、物の特徴を聞き分けることができる。		理 解	60	87	↑
ア 聞くこと (オ)	2	まとまりのある英文を聞いて概要を理解し、話の展開に合わせて複数の絵を並べ替えることができる。	◇	理 解	50	86	↑
ア 聞くこと (オ)	3	まとまりのある英文を聞いて概要を理解し、適切でない文を指摘することができる。	◇	理 解	55	71	↑
エ 書くこと (イ)	4	(1) 適切なbe動詞を書くことができる。		言・文	60	81	↑
		(2) 三人称・単数・現在形の文を書くことができる。		言・文	50	44	↓
		(3) 三人称・単数・現在形の疑問文を書くことができる。		言・文	50	50	—
		(4) 一般動詞の過去形の肯定文を書くことができる。		言・文	50	43	↓
		(5) 一般動詞の過去形の否定文を書くことができる。		言・文	50	41	↓
ウ 読むこと (イ)(ウ)	5	(1) 視覚的情報(文字・絵・表など)を含む英語の題材(案内・新聞・ホームページ)から、必要な情報を短時間で検索することができる。	◇	理 解	60	46	↓
		(2) 視覚的情報(文字・絵・表など)を含む英語の題材(案内・新聞・ホームページ)から、必要な情報を短時間で検索することができる。	◇	理 解	50	49	—
ウ 読むこと (イ)(ウ)	6	(1) 対話文から必要な情報を読み取り、適切でないものを指摘することができる。	◇	理 解	60	80	↑
		(2) 対話文から必要な情報を読み取り、それらをまとめた適切な表を指摘することができる。	◇	理 解	50	68	↑
エ 書くこと (ア)(イ)	7	(1) 示された英語を用いて、対話に合うWhich+名詞の疑問文を書くことができる。		表 現	60	49	↓
		(2) 示された英語を用いて、対話に合うWhenを用いた疑問文を書くことができる。		表 現	60	80	↑
		(3) 示された英語を用いて、対話に合う否定の命令文を書くことができる。		表 現	60	43	↓
ウ 読むこと (イ)(ウ)	8	(1) まとまりのある英文を読んで、その内容を最も適切に表している絵を指摘することができる。	◇	理 解	60	94	↑
		(2) ※調査問題の内容に間違いがあったため、採点、集計の対象から除外しています。					
エ 書くこと (ア)(イ)	9	(1) 対話に合うWhat timeを用いた疑問文を書くことができる。	◇	表 現	55	34	↓
		(2) 対話に合う応答文を書くことができる。	◇	表 現	55	45	↓
		(3) 対話に合うWhoseを用いた疑問文を書くことができる。	◇	表 現	55	42	↓
エ 書くこと (ア)(イ)(エ)	10	条件に従って、まとまりのある英文を考え、書くことができる。	◇	表 現	30	44	↑

A設定通過率とB通過率を比較する際は、下記により判断する。

+5ポイントより上の場合：「↑」 ±5ポイントの範囲内：「—」 -5ポイントより下の場合：「↓」

評価の観点	表 現	理 解	言・文
A設定通過率	54	58	52
B通過率	48	75	52

イ 個々の問題の教育事務所管内・地区別通過率

問題番号	問題の内容	設定 通過率	東 青 管 内			西 北 管 内			
				青森市	東郡		五所川原市	つがる市	西・北郡
1	(1) 指示を聞いての詳細理解	65	74	73	81	73	74	73	71
	(2) 会話を聞いての詳細理解	65	95	95	95	96	95	97	96
	(3) 会話を聞いての詳細理解	60	87	86	88	86	85	87	85
2	まとまりのある英文を聞いての概要理解	50	85	85	86	84	82	84	87
3	まとまりのある英文を聞いての概要理解	55	71	71	73	71	70	69	73
4	(1) 適切な be 動詞の記入	60	76	76	71	75	73	80	74
	(2) 三人称・単数・現在形の一般動詞の記入	50	49	49	42	55	60	63	47
	(3) 三人称・単数・現在形の疑問文の語句記入	50	54	54	53	52	44	64	53
	(4) 一般動詞・過去形の語句記入	50	41	41	38	47	49	47	44
	(5) 一般動詞・過去形の否定文の語句記入	50	39	39	37	50	48	65	45
5	(1) まとまりのある英文を読んでの詳細理解	60	47	47	51	46	45	49	46
	(2) まとまりのある英文を読んでの詳細理解	50	51	51	47	53	48	61	55
6	(1) 対話文を読んでの詳細理解	60	81	81	82	80	78	85	79
	(2) 対話文を読んでの詳細理解	50	70	70	70	67	66	68	67
7	(1) 対話に合う Which を用いた疑問文の完成	60	50	50	54	67	62	78	66
	(2) 対話に合う When を用いた疑問文の完成	60	78	77	85	76	73	80	76
	(3) 対話に合う Don't を用いた命令文の完成	60	43	43	47	40	40	43	39
8	(1) 英文を読んでの詳細理解	60	93	93	92	93	93	94	93
	(2)	※調査問題の内容に間違いがあったため、採点、集計の対象から除外しています。							
9	(1) 対話に合う What time を用いた疑問文の英作文	55	35	36	20	40	34	49	41
	(2) How を用いた疑問文に対する応答文の英作文	55	44	44	48	40	33	45	44
	(3) 対話に合う Whose を用いた疑問文の英作文	55	41	40	50	52	47	59	53
10	条件に合うまとまりのある英作文	30	50	51	42	43	39	32	53
教科全体		55	61	61	61	63	61	67	63

(単位：%)

	中 南 管 内				上 北 管 内			下 北 管 内			三 八 管 内		県全体		
	弘前市	黒石市	平川市	中・南郡	十和田市	三沢市	上北郡	むつ市	下北郡	八戸市	三戸郡				
75	77	73	71	75	75	75	80	73	75	73	81	65	65	67	72
96	96	99	95	97	97	98	99	96	97	98	94	96	96	96	96
87	86	93	85	87	88	89	90	86	88	88	87	88	88	88	87
84	86	85	83	78	88	89	89	86	89	89	88	85	86	83	86
69	71	74	65	58	77	79	76	76	80	80	79	66	66	62	71
77	76	81	81	78	79	79	79	79	88	88	87	91	91	90	81
38	39	34	32	40	52	56	52	49	37	33	49	33	33	36	44
50	49	58	44	51	53	63	53	44	50	50	51	45	46	42	50
41	40	60	33	37	42	45	44	39	39	38	42	48	51	39	43
34	36	32	25	34	47	47	52	44	35	30	54	42	42	42	41
45	48	44	40	38	51	51	56	47	40	41	36	45	45	44	46
50	50	47	50	48	54	55	64	49	52	53	48	41	42	38	49
77	76	79	76	83	83	84	86	81	81	82	80	81	82	77	80
66	66	70	68	62	71	71	77	68	68	69	64	67	68	66	68
49	46	53	49	56	65	67	66	62	37	31	60	31	29	41	49
78	77	75	80	83	83	86	85	81	82	81	85	83	84	77	80
36	37	42	27	32	40	40	44	39	47	47	48	53	55	43	43
93	92	95	92	96	95	94	96	94	95	96	94	94	95	93	94
※調査問題の内容に間違いがあったため、採点、集計の対象から除外しています。															
31	33	37	24	26	41	42	46	37	26	24	35	31	31	32	34
40	42	47	24	32	43	46	43	41	46	45	48	52	53	48	45
32	29	41	29	43	51	55	51	47	44	43	47	42	42	39	42
44	47	54	28	35	47	39	56	47	40	38	46	38	37	40	44
59	59	62	55	58	65	66	67	62	61	60	64	60	60	58	61

※通過率(%)は、「総正答数/総解答数」で算出した数値の少数第1位を四捨五入した整数値で表しています。

ウ 個々の問題の主な誤答例とその原因

問題番号	通過率(%)	主な誤答例(無答を含む) (かっこ内の数字は、抽出した解答全体に占める誤答の割合・%であり、調査全体の誤答の割合とは異なる)
4(5)	41	was (32.0)、am (9.5)、do (6.0)
5(1)	46	イ (23.0)、ウ (16.0)、エ (8.0)
7(1)	49	Which do you like sport (32.5)、Do you like which sport (8.5)、Do you like sport which (3.5)
7(3)	43	Here don't take a picture (13.0)、Don't here take a picture (8.5)、Take a picture don't here (3.5)
9(1)	34	What time do you (15.5)、What time is it (11.5)、無答 (11.5)、What time are you (1.5)
9(2)	45	無答 (6.5)、go/is (5.5)、go/at (4.0)、go/in (3.5)、go/the (2.5)、go (2.5)
9(3)	42	無答 (9.0)、Whose is bag (7.0)、Who is bag (3.0)、Who bag is (3.0)

- 4(5)では、誤答の原因として、wasの誤答が多いことから、be動詞以外の動詞を含む過去形の文で、notを使って否定文を作る場合にはdidを用いることの理解が不十分であることが考えられる。
- 5(1)では、誤答の原因として、イのyou can talk with ALTs in Japanese.を選ぶ誤答が多いことから、本文のYou can speak English with many ALTs of Aomori.と内容を照合させてその差異を認識することができなかつたと考えられる。
- 7(1)では、誤答の原因として、Which do you like sportの誤答が多いことから、いくつかの選択肢がある中で、どれかを知りたいときにはWhich+名詞の形を用いることが十分理解できていなかったと考えられる。
- 7(3)では、誤答の原因として、Here don't take a pictureや、Don't here take a pictureのような誤答が多いことから、場所を表す副詞であるhereを、動詞が他動詞の場合は、目的語の直後に置くという文法規則を十分理解できていないことが考えられる。
- 9(1)では、誤答の原因として、What time do youと書く例が多いことから、I ate it at seven.を過去の事として捉えられなかつたり、be動詞以外の動詞を含む過去形の文で、疑問文を作る場合にdidを用いることの理解が不十分であることが考えられる。
- 9(2)では、誤答の原因として、無答やI usually go to school is bus.と書く例が多いことから、何を質問されているのか分からなかつたり、be動詞と一般動詞の使い分けや前置詞の概念の理解が不十分であつたりすることが考えられる。
- 9(3)では、誤答の原因として、無答やWhose is bag this?と書く例が多いことから、だれのものかを尋ねる疑問詞のwhoseを知らなかつたり、疑問詞を名詞の前に置いて使うことができる疑問形容詞に関する理解が不十分であることが考えられる。

エ 今後の指導について

(1) 読むこと

○課題の見られた問題 5(1)

○出題のねらい

視覚的情報（文字・絵・表など）を含む英語の題材（案内・新聞・ホームページ）から、必要な情報を短時間で検索することができるかを判断する問題である。平成30年度全国学力・学習状況調査英語予備調査において、まとまりのある英文を読んでの詳細理解が十分ではないという課題が見られたため、同じ形式の問題を出題することで県全体の傾向を見るために出題した。

○分析結果と課題

分析の結果、英語を読んで情報の詳細を理解することができない生徒が約5割であった。原因として、既習の語や文法事項等の知識を活用して、文構造を適切に捉えたり、動詞等の内容を正確に読み取ったりしながら、書かれているものの内容や、必要とする情報を取り出すことができなかつたことが考えられる。課題として、英語を読んで詳細を理解するために、語や文法事項等の知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる程度まで高められていないことが考えられる。

○学習指導に当たって

今後の指導に当たっては、教科書を活用して、日常的又は社会的な話題について必要な情報や最も大切な部分を読み取ったり、短い文章の概要や要点を捉えたりすることが大切である。また、読むことだけにとどめずに、読んだ内容について、自分の考えを整理して述べたり、書いたりすることが必要である。

指導例

教科書本文の内容理解からアウトプットにつなげる指導例

～「読むこと」から「話すこと・書くこと」へ～

【指導の流れ】 **使用教材** COLUMBUS 21 ENGLISH COURSE 2 Let's read 2 Living with Robots

- 1 単元の目標を各校の「CAN-DOリスト」で確認させ、本単元の学習の見通しをもたせる。
- 2 本文の概要・要点を理解させる。

学習活動① 教師による口頭説明や生徒とのインタラクションにより、本文の概要や背景を理解する。(Small Talk)

学習活動② Q & Aを通して本文の要点について理解する。

- (例)
- 1 What did robots do after the Great East Japan Earthquake?
 - 2 Why Dr. Sankai study robots at university?
 - 3 What can you do when you are wearing HAL?
 - 4 Why did Dr. Sankai create the Robot Suit, not just a robot?



ポイント

- ・導入においては、絵や画像、動画等を使うなど、ICTを活用し生徒の興味・関心を高める。
- ・既習表現や重要な語彙・表現を意図的に使用させる。
- ・Q & Aにフルセンテンスで答えられないときは、単語や語句のレベルでもよいので、できるだけ英語で答えさせる。その後、答え方等について全体でアイディアを出し合いながら正解を共有する、といった手法も大切である。

3 重要な語彙・表現や英文、新出の文法事項について説明し、本文の内容理解を深めるとともに、今後活用する場面に向けて準備をさせる。

学習活動① 生徒にとって難しいと思われるフレーズや英文を取り出し解説する。

学習活動② それを使った適度な練習を行う。



Look at this sentence.
"When you put on the Robot Suit, you become much stronger."
Does anybody know this meaning?



It's a little difficult.

ポイント

- ・文法に関する指導は、生徒に言語材料を定着させる上で必要だが、文法説明が中心とならないようにする。
- ・説明後は、その語彙・表現等への理解を深めるために、練習する時間を設定することが大切である。

4 本文の内容に関して、自分なりの考えをもたせ、書いたり話したりして表現させる。

学習活動① ロボットの写真を見て、そのロボットを説明する英文を考える。

What robot do you like? What kind of robot do you want to create?
There are some pictures of robots. Choose one picture and think about its good point. Write your idea on your worksheet.



【筆記例】

I will choose this robot.

It is very cute. When you touch and hold it, you will become happier and smile.

学習活動② グループの中で、選んだロボットについて尋ね合ったり伝え合ったりする。



Which robot did you choose? And why?

I like this one. This dog is so cute. When I touch and hold it, I will become so happy. This dog can give me 癒やし when I am sad.



学習活動③ グループで伝え合った意見を参考に、ロボットの活用に対する自分の意見をまとめる。

ポイント

- ・「学習活動②」では、教師の見取りが大切である。グループでの活動中は、巡回によって生徒の発言を聞き、間違いや疑問点に対して適切に指導できるようにする。また、学級全体に関わる大事な内容については、すぐに答えを与えるのではなく、一旦活動を止め、みんな考えて正解を導き出すことも一つの手法である。【活動→中間評価・指導→相手を替えて活動】
- ・教科書本文の内容を、読み手として主体的に考えさせることが大切である。仲間の考えを参考にさせながら、最終的には自分の意見として話させたり書かせたりする。

(2) 書くこと

○課題の見られた問題 10

○出題のねらい

条件に従って、まとまりのある英文を考え、書くことができるかを判断する問題である。平成30年度から、20語以上の英文を書かせることとしたが、条件に合うまとまりのある英文を書くことに引き続き課題が見られたため、文章構成をより意識して英文を書くことができるかを問うこととした。

○分析結果と課題

分析の結果、約5割の生徒が、条件に合うまとまりのある英文を書くことができなかった、または、英文を書いたものの、英語の基本的な語や文法事項等を理解して、正しく英文を書くことができなかった。原因として、語や文法事項等の知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる程度まで高められていないことが考えられる。課題として、「話して書く」「読んで書く」等の領域を統合した指導の充実と、英文を読み合い、よりよく読み手に伝わるように書く指導の充実が考えられる。

○学習指導に当たって

今後の指導に当たっては、コミュニケーションの目的や場面、状況のある言語活動において、様々な個別の知識を活用させて文を書かせることを単元・授業の中に位置付けることが大切である。また、生徒の誤りについて生徒自身に考えさせるなどの指導を繰り返すことを通して、学習内容の理解を深めさせていくことが必要である。

指導例

三人称の英文を含むまとまりのある文章を正しく書かせるための指導

【指導の流れ】 使用教材 New Horizon English Course 2 Presentation 3

- 1 単元の目標を確認させ、学習内容や活動に見通しをもたせる。
- 2 Small Talkを通して教師が自分の好きなこと・もの、人について話す。



Today, we will talk about our favorite things. For example, music, comic books, and sports. I like baseball the best of all sports. Playing baseball is a lot of fun. My favorite baseball player is Hayato Sakamoto. He is from Osaka, but he was in Hachinohe when he was a high school student. He is one of the most famous baseball players in Japan. What are your favorite things?

- 3 生徒の好きなこと・もの、人について教師と生徒が口頭でやり取りする。

学習活動① 自分の好きなこと・もの、人についての簡単な情報を日本語で書く。

学習活動② 情報を基に、教師と生徒が口頭でやりとりする。



What do you want to talk about?

Oh, you like music.

Oh, your favorite group is Arashi.

Who is your favorite member of Arashi?

Music.

Yes. My favorite group Arashi.

Aiba-Kun.



ポイント

数人とやり取りを行う。発話における間違いを正しく言い換え、聞かせるようにする。

学習活動③ 情報を基に、ペアでやり取りをする。

学習活動④ 情報を基に、好きなこと・もの、人についての英文を書く。

【筆記例】

I like music. My favorite group Arashi. I like Mr. Aiba best. He sing and dance very well. I want go to their consert next year.

学習活動⑤ 誤りのある英文をクラス全体に示し、全員で修正する。



groupとArashiの間にはisが入ると思います。

最後の文章はwant goで良かったかしら。

singとdanceにはsが付くよね。

consertのつづりはこれで良かったかな。



ポイント

生徒が気付いた誤りの箇所は、教師がまとめて「チェックリスト」として黒板に示す。

【チェックリスト例】

- fromの前にisがあるか。
- 最上級の前にtheがあるか。
- 主語がI, You 以外の単数のとき、動詞の形は正しいか。(play? plays? played?)
- 名詞は単数形か複数形か。単数ならa / an が付いているか。

学習活動⑥ チェックリストを活用して誤りを修正し、書き直す。

学習活動⑦ ペアで英文を交換し、チェックし合う。

ポイント

正確に書く力を高めるためには、ある程度時間がかかることに留意して、様々な場面で何度も既習表現に触れたり考えたりする機会を設け、「最終的に身に付ける」というスタンスで長期的に指導することが大切である。単元の指導計画の中に意図的に組み込んで指導する場合は、書く指導に時間がかかることを考慮して、適切な計画を立てる必要がある。